

2026 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき 2026 年度第 1 回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1. 実施日時

2026 年 10 月 3 日（土）15:00～17:30

2. 実施場所

ECC 国際外語専門学校

3. 学校関係者評価委員 ※順不同

(1)関連業界等関係者

委員長 五十嵐 駿太 氏	株式会社 With The World 代表取締役社長
企業関係者 國府 昭義 氏	三井不動産リゾートマネジメント株式会社 HOTEL THE MITSUI HAKONE 副総支配人兼人材開発部長/HOTEL THE MITSUI KYOTO 人材開発部長
高等学校関係者 貴治 康夫 氏	高等学校 教員
地域関係者 中上 隆雄 氏	済美地域社会福祉協議会 会長
保護者代表 岩本 輝男 氏	
卒業生代表 小笠原 梨乃 氏	
卒業生代表 池田 里佳子 氏（欠席）	

(2)同席者

大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 校長
東井 喜美	ECC 国際外語専門学校 副校長
榊原 悠佑	ECC 国際外語専門学校 教務課責任者
山本 静香	ECC 国際外語専門学校 教務課英語チーム
南條 祐麻	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
杉田 典彦	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター責任者
里 才門 フリント	ECC 国際外語専門学校 教務課専任教員
辻浩平	ECC 国際外語専門学校 教務課（書記）

4. 報告内容

(1) 2025 年度 学校運営および教育総括[大谷内]

- 専門課程入学者数及び総在籍者数の報告。
- 学生アンケートは、力がつく授業 4.28、担任満足度 4.39、学校生活満足度 4.05。継続率 94.1%、卒業率 98.3%。

- 就職内定率 98.8%、留学生就職率 100%。
- 進学希望者 24 名全員合格。国公立大学・関関同立合格者 14 名。
- TOEIC 卒業時 600 点以上、日本語能力試験 N2 合格率、TOPIK 各級の合格実績等について報告。
- 国際キャリア学科・アジア言語学科が職業実践専門課程として認可されたこと、留学生増加に対応した教務・進路運営、日本語教育強化、特定技能ビザ対応等を今後の課題として説明。

5. 「2025 年度 自己点検評価報告書」に基づく報告[各部署責任者]

領域Ⅰ 専門学校専門課程の目的および学修成果[榊原][杉田]

【基準Ⅰ-1】学生の多様化と継続率・卒業率[榊原]

2025 年度は、特性のある学生や通信制高校出身生等、多様な学生への対応が求められた。継続率 94.3%、卒業率 98.3%、内留学生の退学者は 2 名。留学生の出席率は平均 97%台であった。

【基準Ⅰ-2】学生が通いやすい環境づくり[榊原]

学生一人ひとりの状況に応じた支援と、安心して学校生活を送ることができる環境づくりの重要性を確認した。

配慮が必要な学生への理解を深める教員研修、学生同士の交流機会（留学生との交流）、検定優秀者セレモニー等の取り組みを実施。

[授業満足度から見えた課題]

力のつく授業満足度などの学生アンケート結果を踏まえ、学生への支援に加えて、授業そのものの改善を進める必要がある。1 人 1 人の学生にアプローチし、学生の変化に合わせたカリキュラムを策定する。

【基準Ⅰ-2】専門学校専門課程の目的及び学修成果[杉田]

就職・進学等の学修成果

2026 年 3 月卒業生の就職内定率 98.8%、（ホテル、航空が多い。その他アパレル、USJ など）。ホテル業界へは、ホテルコース以外の語学系コースからの就職も多かった。

留学生については、通常の応募以外に、インターンシップや会社見学など早期に企業と接する機会を多く創出したい。

<委員からの意見・質疑>

[國府委員]

留学生の国籍とその国との関係は？

-ミャンマー、ネパール、ベトナムの順で、この 3 国で 9 割。入学者は日本語学校経由で入学するケースが多いため、日本語学校との関係が重要。

[國府委員]

韓国語コースの就職先は？

-英語に加えて韓国語も使う職場が多い。ホテル、物流、アパレルなど。USJ の採用も韓国語コースの学生。

[五十嵐委員]

配慮が必要な学生の中で障害者手帳を取得している学生は？

-在籍している。配慮を必要とする学生をサポートする「学生相談室」と連携しサポートしている。

領域Ⅱ 教育課程および教育方法

【基準Ⅱ-3】教育課程・カリキュラムの体系化[榊原][山本]

2025 年度は、各科目を個別の「点」として充実させるだけでなく、「点から線へ」を意識し、コースゴールやディプロマ・ポリシーとのつながりを EM（エンロールマネジメント）会議等で精査した。

自律学習支援強化として、授業内の学びに加え、授業外でも学生が自ら目標を持って学ぶ仕組みを整備。

【基準Ⅱ-7】学校の「外」とのつながり[里]

連携授業・出張授業・ボランティア・外部機関との連携（梅田町案内・地域中学校授業・車椅子バスケットボール大会通訳など）を推進するとともに、学修成果を外部へ発信する機会（スピーチコンテスト：GEAでの発表）の活動を通じ、自ら成長を自分の言葉で伝える機会を設けた。

<委員からの意見・質疑>

[貴治委員]

英語学習アプリ「レシピー」を選択した理由は？

-他校での採用実績やアプリ自体の評価により導入を決めた。

[五十嵐委員]

車椅子バスケットボールボランティアへの参画はどのような経緯で始まったのか？

-団体からのオファーをいただき、今年で5年目を迎えている。

領域Ⅲ 教育上の基本となる組織[大谷内・東井]

教育活動を支える組織体制について報告が行われ、各部署・担当者が自己点検評価に基づく改善を進めている。

学園主体の段階別・テーマ別研修、外部研修、コンプライアンス研修を実施。2025年度はアカハラ・カスハラをテーマにケーススタディを取り入れ、2026年度はより実践的で本校の課題に即した研修へ充実させる方針。

領域Ⅳ 学修環境[榊原]

地震・火災を想定した避難訓練、大地震対応マニュアルの配布、AED設置・救命講習、教職員の消火器訓練、ファイナンススタディによる金銭トラブル防止教育等を実施。

2026年度から、卒業までにいずれか一つの海外経験をする「全員海外経験」を開始し、視野・価値観・進路の選択肢を広げる取組として位置付ける。

各種ハラスメントの相談窓口・相談方法について、学生・教職員がより分かりやすく理解できる情報提供を改善事項として示した。

<委員からの意見・質疑>

[岩本委員]

防犯面、不審者への対応において強化されていることは？

後期より、1F エントランスにセキュリティロックをかけるように対応を強化。

領域Ⅴ 学生定員管理および経営管理[南條]

AO入学、公募推薦入学、一般入学の3種類を設け、出願前面談により学習意欲・目的意識・適性等を確認。入学予定者全員に英語・韓国語の語学レベルチェックを実施し、クラス編成の参考資料として活用。

2026年4月入学者は382名。韓国語コースは、レベル別体験授業、K-POP・韓国文化の体験型プログラム等による魅力発信を進め、教育内容・進路実績の情報発信を強化する。

<委員からの意見・質疑>

[貴治委員]

多様化する来校者についての対応

-オープンキャンパスで個別のガイダンスを来校者全員に行い、そこで得た情報を教職員で共有している。

領域Ⅵ 内部質保証[東井]

企業連携授業や教育課程編成委員会を通じて業界が求める人材像・知識・技術について意見を聴取し、教育課程改善へ反映する。

研修などで、教員間での授業実践の共有をすることで二極化学生へ対応する。(FDの充実)

6. 委員からの総合的な意見・質疑応答

【質問 1】地域・企業・卒業生との連携強化

[小笠原委員]

卒業後も卒業生が学校を訪れ、学生に経験を伝える機会が学生のモチベーションを上げる。

[池田委員]

気軽に話し合えるようなハードルを下げた交流があればよいのではないかと。(東井が代読)

[中上委員]

ECCの学生が地域の行事に参加することで子ども・親などの若い世代との交流が増えた。

[國府委員]

企業と連携し、PBL型の実践的な取り組みを行うことで、高い効果を得ることができるのではないかと。

【質問 2】学生、保護者に選ばれる学校作り・AI活用について

[岩本委員]

学校のプラスの側面だけでなく、マイナス面も情報開示して欲しい。

[貴治委員]

他校との差別化を打ち出して欲しい。カリキュラムの充実、姉妹校との連携、立地など。

[國府委員]

ホテルの現場でもAI活用方法を模索しているが、人と人とのコミュニケーションの重要性は逆に高まっている。

[小笠原委員]

英語以外の言語を翻訳する、社内でのスケジュール管理などで利用している。

[貴治委員]

AIは、アイデア産み出すきっかけとして活用し、考えをすすめることが大事。条件付きの使用がベスト。

[五十嵐委員]

問題発見では、AIと自分の思考力をどのようにコンバインするかが重要。

【質問 3】教育現場におけるマネジメントについて

(運営ルールの徹底や効果的な教職員研修・人材育成等)

[貴治委員]

各自の目標と学校の目標に対してどれだけ貢献できたかを年に数回フィードバックする。

[五十嵐委員]

あるイギリスの学校では教職員を表彰する機会が多数用意され、教職員のモチベーション向上につながっている。

[國府委員]

ビジネスの現場のアップデート、会社のビジョンとミッションとバリューの共有が重要。

[小笠原委員]

目標に対しての達成度の他、キャリアビジョンについての面談があり、キャリアについて考える機会となっている。

[國府委員]

社員は毎月、管理職は四半期ごとに表彰する。年間の優秀者にはハワイ旅行。また、お客様からのコメントでモチベーションが上がる。

7. まとめ

本委員会では、2025年度の学校運営および教育活動の実績と課題について報告し、今後の教育の質の向上に向けて意見交換を行った。教育・進路支援の成果が確認されたほか、学生の状況に応じた支援、自律的な学習の促進、企業・地域との連携による実践的な学習機会の提供などの取り組みについて共有した。

一方、学生の多様化に対応した授業改善、教員間の指導方針や成績評価基準の共有、学習意欲の向上、学校の特色や教育成果の発信などが課題として挙げられた。また、卒業生との交流機会の充実、企業・地域との継続的な連携、AIの適切な活用、教職員の人材育成についても、委員から貴重な意見・提言が寄せられた。今後は、これらの意見を学校運営および教育活動の改善に反映し、人材の育成と教育の質の向上に努めていく。